



エバーノートを有効活用する
プリマペーラの吉川社長(奥)

生産性向上

ネット上で文書や写真などを保存・共有できるクラウドサービス「エバーノート」。リサイクルショップを展開するプリマペーラ(太田市西本町)の吉川社長(奥)は、データを保存し

県内企業がITを活用した働き方改革を進めている。生産性向上や長時間労働の是正のように目的はさまざま、こうした課題の解決につながるツールが登場している。ITが働き方を変えている。

ITが変える

新たな働き方 ①

情報や発想を共有 若手でも熟練の品質

川充秀社長(44)は、経営にフル活用する。

外出先でメモ

当初は個人用で使い始め、自室の書類や書籍をスキャナーで読み



道路工事でICT対応のブルドーザーを使う南雲建設

てると部屋が片付き、思考も整理された。2010年に会社で導入した。社員が交換した名刺は全て共有。書類もネット上に保存することで、オフィスのペーパーレス化が一気に進んだ。効果的な意思決定や会議にもつなげる。音声を文字に変換するスマートフォンのアプリを使い、外出先でもひらめきを記録。事業やプロジェクトごとに情報やアイデアを集約し、これらを基に会議で議論する。

吉川社長は「エバーノートほど情報を一元化するのに優れたものはない」と言い切る。8期連続の増収増益と業績好調で、「エバーノート経営」と体系化したノウハウを他社にも指導している。

設計通り操縦

渋川市内の道路工事現場で、ブルドーザーが図面通りに整地して

いく。操縦するのは南雲建設(同市赤城町溝呂木)の入社4年目、高橋亮太さん(22)。同社は情報通信技術を用いた「ICT土工」に先進的に取り組む。ICT土工は3次元で測量と設計を行い、データを重機に送信する。GPS機能が付いた重機は土砂を運ぶ排土板などが設計通りに動くため熟練度にかかわらず操縦できる。ICT対応重機は本体とは別に1500万円ほどかかるが、人手不足の中、省力化につながる。南雲和好社長(62)は「うまく整地するには5、10年かかる。ICT土工なら熟練者も若手も関係なく品質のいいものができる」と話す。

県建設業協会の青柳剛会長は「県内の建設会社が生産性向上にどれだけ投資ができるのか、協会はどう支援ができるのかが問われている」と強調する。